

伊犁河の
渡場の合
什河の流
點

哈萨克と
里程、方
角、年齢

三十一日東行數町ならず、伊犁河の渡場に臨む。此地は哈什河の合流點にして河幅約五百米突、水深三米突、流速急激、渡船三分時を費す。渡り畢れば哈萨克千戶長(官三)の設備せる天幕内に休憩し、三時十五分特克斯塔柳城トクスタウに到り、其の東方數町の處に用意せる氈幕に投宿せり。行程約十三里當地の附近には、目下哈萨克を見ず。蓋し彼等は夏季蚊虻の害を避け、深く山中に入るなりと。城内には錫伯屯田兵住居し、城外纏頭回民の墳墓を見る。此附近は、往時衆多の住民を以て充たせしも同治回亂後痛く荒廢に歸し、近年僅に錫伯人の屯田する者あるのみ。地形は廣濶なる一連の臺地を成して地味膏腴なれば、最も植民地に適す。

予は試みに哈萨克の二三名に就て、明日の行程を尋ねたりしに、一人の明答を與るふ者なし。因て更に本日の行程と比較遠近を問ふも知らずと答ふ。餘りの事に又復た問ふに年齢と方角とを以てせしも、遂に答ふる者少し、終生流離轉泊する彼等とは云へ、其の無神經なるや憐むに堪へたり。

四、成吉思汗時代の古蹟

六月一日、錫伯の屯田營地を過ぎて莫音庫色爾モインクセルの氈幕に着す。其行程約八里半